

「自律的な学習者」を育てる 学び方指導

学習しているが、なかなか成果につながらない生徒。

勉強をする意欲がわかず、勉強に向かえない生徒。

生徒の学習に関する課題はさまざま。

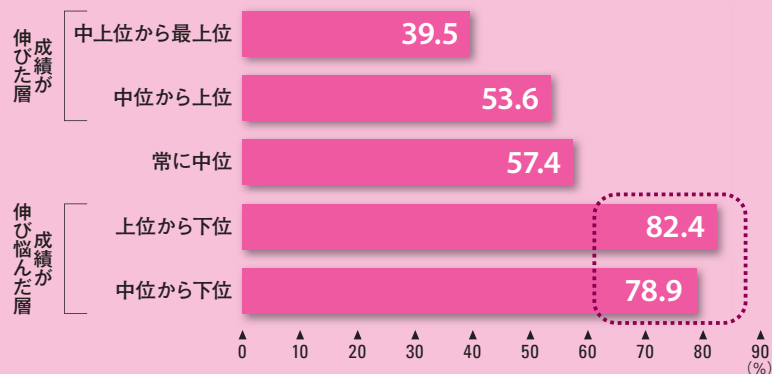
今回の特集では、「学び方」に着目し、

生徒を自律的な学習者にしていくための指導を考える。

1年生で成績が伸び悩んだ生徒の約8割が
学び方について悩みを抱えている

Q. テストの点数や成績が悪かった時、
どう勉強すればよいか分からなかった

(中学1年生1学期から1年生終了時までの成績変動別)



*数値は「とても感じた」+「まあ感じた」の%
出典／Benesse 教育研究開発センター「中学1年生の学習と生活に関する調査」(2012)
調査データの詳細はP.26の「資料」で掲載

学習規律だけでなく 効果的な学び方指導が必要

小学校と比べて学習内容が難しくなり、授業進度が速くなる中学校では、暗記や量に頼った学習だけではなかなか成果が上がらないようだ。そこで、『VIEW21』中学版の読者アンケート、および先生方へのヒアリングから、生徒の「学び方」の現状と課題を整理すると共に、課題解決のポイントと指導のヒントをまとめた。

『VIEW21』読者モニターの声に見る

「学び方」に関する教師の課題意識

課題

1

自分なりの「学び方」はあるが、
学力向上に結び付いていない

- ◎板書をノートにきれいにまとめることに一生懸命で、肝心の授業内容の振り返りが十分に出来ていない。
- ◎学校の放課後自習室に参加し、塾に行き、家庭教師も付けて勉強しているが、いつも同じような問題で間違う生徒がいる。間違いから学び取る力が育っていないと感じる。

課題

2

与えられた課題には取り組むが、
主体的に学ぶことが出来ない

- ◎自主学習ノートに取り組ませると、「何をどう勉強すればよいか分からない」と、とにかく漢字や英単語を何度も書き写してくる生徒がいる。
- ◎失敗や間違いは悪いことだという意識が強く、自分の間違いを隠して、とにかく友だちの正解を写せばよいと考えている。

課題

3

「学び方」以前に、
学びに向かう意欲が低い

- ◎授業の内容を理解できず、面白くないと感じている生徒にどう興味を持たせるか。
- ◎何のために勉強をするのか分からない生徒がいる。

「自律的な学習者」を育てる学び方指導

課題解決のポイントと指導のヒント

—提案—

生徒の「学び方」、ひいては学習観を変えることによって
自律的な学習者を育てる

「自律的な学習者」の育成につながる 学び方指導のポイント

どのような思考過程を経て、問題を解いているのか、学習の中身を問う

適切な「学び方」を指導し、学習方法を変えることで、生徒に学ぶ楽しさや成果を実感させ、
学びに対する考え方(学習観)を変える

▶▶▶ **対談 P.6** 東京大大学院教育学研究科助教 **植阪友理**
岡山市立野谷小学校教頭(元岡山市立灘崎中学校主幹教諭) **床 勝信**

課題 **1** に対する指導のヒント

▶▶▶ **床先生の実践事例 P.12**

- 誤答を活用し、どこでどう間違えているのかを自分の言葉で説明させる
- 重要な考え方、理解のポイントを補足するプリントを配り、家庭学習と連動させる
- 授業の内容と連動して、評価(定期考査など)も変える

課題 **2** に対する指導のヒント

▶▶▶ **学校事例1 P.14** 岐阜市立東長良中学校

- 他学級・他学年の授業を生徒が参観し、多様な学習の仕方を学び合う
- 分からないことを教え合う場を設け、間違いから学べることがあると気付かせる
- 学習シラバスで各学年、教科ごとの「学び方」を示す

課題 **3** に対する指導のヒント

▶▶▶ **学校事例2 P.20** 安曇野市立穂高東中学校

- 学びに対する必要感(伝えたい、表現したい)を強く持てる課題を盛り込む
- 生徒が互いの理解を共有し、認め合う場をつくる